

小学生の肥満傾向の改善進む

平成26年度 学校保健統計調査結果(香川県分)

□ 調査の概要

学校保健統計調査は、幼児、児童及び生徒(以下「児童等」という。)の発育及び健康の状態を明らかにするために、昭和23年度から毎年実施されている基幹統計調査です。

文部科学大臣が指定した県内149校(幼稚園、小学校、中学校、高等学校)に在籍する5歳から17歳(平成26年4月1日現在満年齢)までの児童等を対象に、平成26年4月～6月に行われた健康診断の結果をもとに調査を実施したものです。

□ 調査結果の概要

◆発育状態調査

◇身長

- ・前年度調査結果と比べると、男子は5歳、7歳、9～11歳、14歳及び17歳の各年齢で前年度の値を上回っており、6歳、12歳、13歳及び15歳の各年齢で前年度の値を下回っている。女子は13歳及び15歳を除く全ての年齢で前年度の数値以下となっている。
- ・全国平均と比べると、男子、女子ともに全ての年齢で全国平均値を下回っている。
- ・各学校段階の最高学年(5歳、11歳、14歳、17歳)の平均を10年前と比べると、男子、女子ともに全ての段階で平成16年度の値を下回っている。

◇体重

- ・前年度調査結果と比べると、男子は5歳、9～11歳、14歳及び16歳の各年齢で前年度の値を上回り、6～8歳、12歳、15歳及び17歳の各年齢で前年度の値を下回っている。女子は7歳、12～15歳の各年齢で前年度の値を上回っており、5歳、6歳、8～11歳、16歳及び17歳の各年齢で前年度の値を下回っている。
- ・全国平均と比べると、男子は5歳、7～11歳、15歳及び17歳、女子は5歳、6歳、8～10歳、16歳及び17歳で全国平均値を下回っている。
- ・各学校段階の最高学年(5歳、11歳、14歳、17歳)の平均を10年前と比べると、男子、女子ともに全ての段階で平成16年度の値を下回っている。

◇肥満傾向児の出現率

- ・前年度調査結果と比べると、男子、女子ともに小学校では過半の年齢で低下している。
- ・全国平均と比べると、男子は9歳及び12～17歳、女子は5歳、7歳、8歳及び11～15歳で全国平均値を上回っており、特に12～15歳は男子、女子ともに上回っている。
- ・各年齢別の出現率は、男子、女子ともに15歳が最も高くなっている。

◆健康状態調査

◇むし歯(う歯)のある者の割合

- ・前年度調査結果と比べると、全ての学校段階で低下している。
- ・全国平均と比べると、幼稚園、小学校及び中学校で全国平均値を上回っている。

◇歯垢の状態(歯に相当の付着がある)、歯肉の状態(専門医による診断が必要)の割合

- ・前年度調査結果と比べると、歯垢及び歯肉の状態の割合は、いずれも全ての学校段階で低下している。
- ・全国平均と比べると、歯垢及び歯肉の状態は、いずれも中学校及び高等学校で全国平均値を上回っている。

□ 調査対象

区分	学校数 (校)	調査対象校		在籍者数 (人)	調査対象者				
		実数 (校)	割合 (%)		発育状態		健康状態		
					実数 (人)	割合 (%)	実数 (人)	割合 (%)	
合計	457	149	32.6	112,963	12,501	11.1	65,922	58.4	
内訳	幼稚園	165	31	18.8	5,044	955	18.9	1,306	25.9
	小学校	175	57	32.6	53,422	5,295	9.9	28,221	52.8
	中学校	75	37	49.3	28,371	4,131	14.6	19,256	67.9
	高等学校	42	24	57.1	26,126	2,120	8.1	17,139	65.6

※発育状態は、調査対象校の該当年齢の無作為抽出児童等が対象で、健康状態は、調査対象校の該当年齢の全児童等が対象である。
※学校数は、学校基本調査結果による。

■ 発育状態調査

【身長】

身長(平均値)は、前年度と比較すると、男子は 5, 7, 9~11, 14, 17 歳で前年度を上回り、女子は 5~10, 12, 14, 16, 17 歳で前年度を下回っている。(13 年齢区分中、男子は増加 7・減少 4、女子は増加 2・減少 10)

全国との比較では、男子、女子ともに全ての年齢で全国平均を下回っている。(表 1, 図 1)

各年齢間の身長差をみると、男子は 12~13 歳の間が 7.4cm、女子は 9~10, 10~11 歳の間が 7.0cm と最も大きくなっている。(図 2)

30 年前(親の世代)の昭和 59 年度と比較すると、5 歳男女、7 歳男子、6, 14~17 歳女子を除く全ての年齢で親の世代の値を超えており、特に 13 歳男子で 2.9cm、12 歳女子で 1.6cm と最も伸びている。(表 1, 図 3)

表1 年齢別身長の平均値

(cm)

区分		男 子						女 子							
		平成26年度			昭和59年度			平成26年度			昭和59年度				
		香川県		全国	順位	香川県		順位	香川県		全国	順位	香川県		
		A	対前年度差	B		A-B	C		A-C	A	対前年度差		B	A-B	C
幼稚園	5歳	110.2	0.5	110.3	△ 0.1	26	110.3	△ 0.1	109.0	△ 0.2	109.5	△ 0.5	37	109.4	△ 0.4
小学校	6歳	116.3	△ 0.4	116.5	△ 0.2	29	116.1	0.2	115.1	△ 0.6	115.5	△ 0.4	42	115.4	△ 0.3
	7歳	121.9	0.1	122.4	△ 0.5	38	121.9	0.0	121.1	△ 0.1	121.5	△ 0.4	37	120.7	0.4
	8歳	127.8	0.0	128.0	△ 0.2	32	127.1	0.7	126.6	△ 0.7	127.4	△ 0.8	42	126.4	0.2
	9歳	133.2	0.2	133.6	△ 0.4	31	131.7	1.5	132.7	△ 0.6	133.4	△ 0.7	43	132.1	0.6
	10歳	138.7	0.6	138.9	△ 0.2	27	136.9	1.8	139.7	△ 0.4	140.1	△ 0.4	36	138.5	1.2
	11歳	144.7	0.1	145.1	△ 0.4	34	142.3	2.4	146.7	0.0	146.8	△ 0.1	26	145.3	1.4
中学校	12歳	151.8	△ 0.1	152.5	△ 0.7	39	149.0	2.8	151.5	△ 0.1	151.8	△ 0.3	31	149.9	1.6
	13歳	159.2	△ 0.2	159.7	△ 0.5	31	156.3	2.9	154.5	0.3	154.8	△ 0.3	33	154.3	0.2
	14歳	164.5	0.5	165.1	△ 0.6	35	162.7	1.8	155.3	△ 0.4	156.4	△ 1.1	46	155.8	△ 0.5
高等学校	15歳	167.3	△ 0.6	168.3	△ 1.0	44	166.6	0.7	156.5	0.1	157.0	△ 0.5	31	156.5	0.0
	16歳	169.4	0.0	169.8	△ 0.4	35	168.9	0.5	156.8	△ 0.3	157.6	△ 0.8	41	156.8	0.0
	17歳	170.1	0.3	170.7	△ 0.6	37	169.4	0.7	157.1	△ 0.2	157.9	△ 0.8	40	157.3	△ 0.2

図1 全国平均値との差

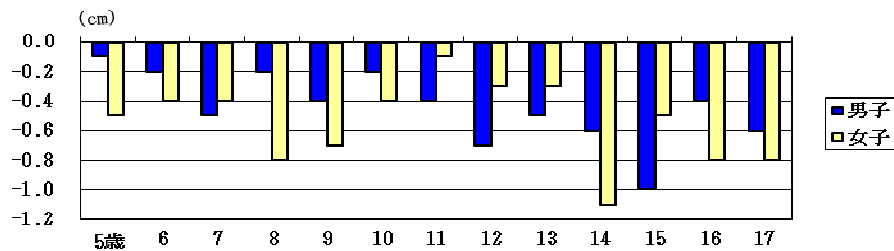
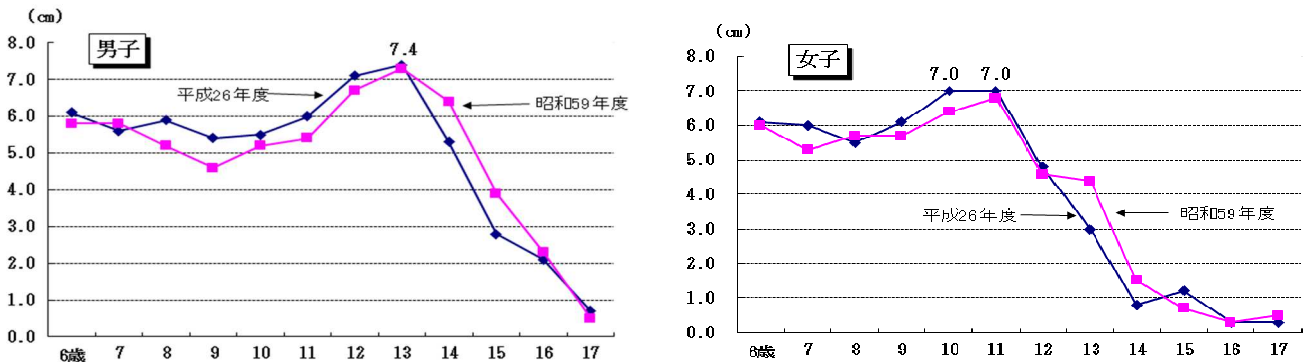
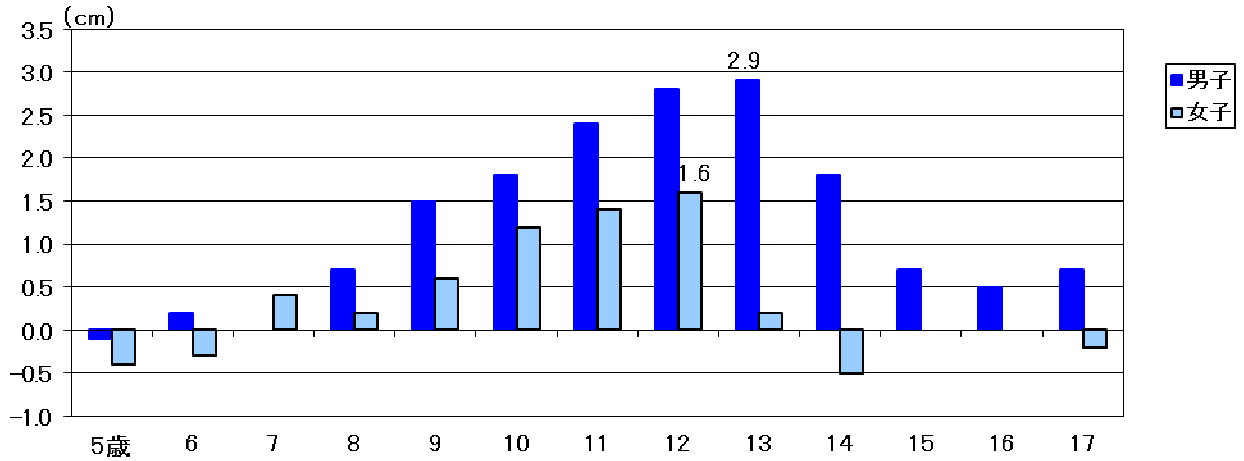


図2 各年齢間の身長差



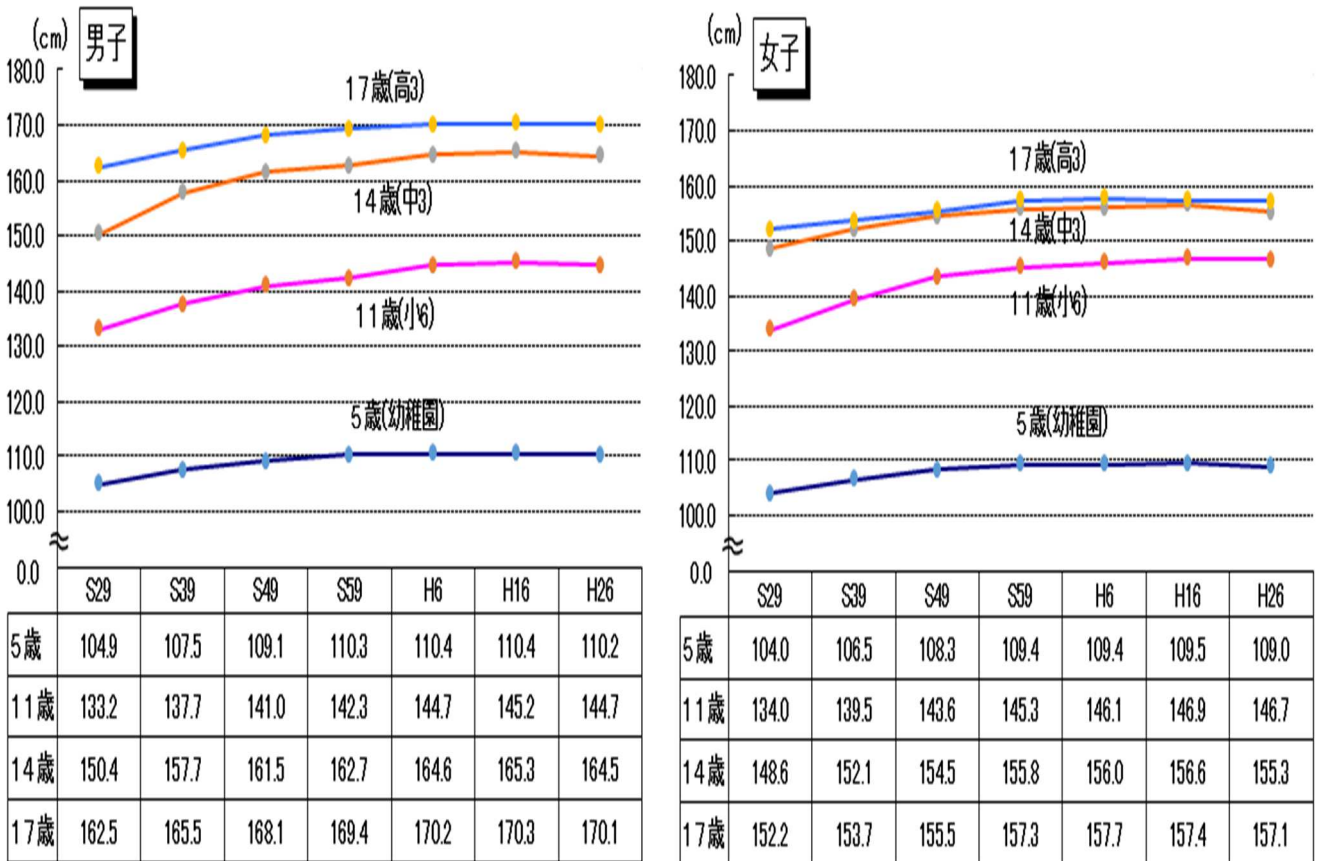
(注) 図中の6歳は(6歳-5歳)であり、7歳は(7歳-6歳)となっている。以下の各図においても同じ。

図3 30年前(親の世代)との身長差(平成26年度ー昭和59年度)



各学校段階の最高学年の身長について、60年間の推移を10年ごとにみると、男子の最高値は5歳が平成6, 16年度、11, 14, 17歳が平成16年度となっており、女子の最高値は5, 11, 14歳が平成16年度、17歳が平成6年度となっている。(図4)

図4 身長の平均値の推移(昭和29年度～平成26年度の10年間隔)



【体 重】

体重(平均値)は、前年度と比較すると、男子は5, 9~11, 14, 16歳で前年度を上回り、女子は5, 6, 8~11, 16, 17歳で前年度を下回っている。(13年齢区分中、男子は増加6・減少6、女子は増加5・減少8)

全国との比較では、男子は5, 7~11, 15, 17歳、女子は5, 6, 8~10, 16, 17歳で全国平均を下回っている。(男子高3・低8、女子高6・低7)(表2, 図5)

各年齢間の体重差をみると、男子は11~12歳の間が6.2kg、女子は10~11歳の間が5.7kgと最も大きくなっている。(図6)

30年前(親の世代)の昭和59年度と比較すると、5歳男女、6, 15, 16歳女子を除く全ての年齢で親の世代の値を超えており、特に12歳男子で2.8kg、12歳女子で1.6kgと最も増加している。(表2, 図7)

表2 年齢別体重の平均値

区 分		男 子						女 子							
		平成26年度			昭和59年度			平成26年度			昭和59年度				
		香川県		全国	香川県		全国	香川県		全国	香川県		全国		
		A	対前年度差	B	A-B	順位	C	A-C	A	対前年度差	B	A-B	順位	C	A-C
幼稚園	5歳	18.8	0.1	18.9	△0.1	17	18.9	△0.1	18.3	△0.3	18.5	△0.2	29	18.5	△0.2
小学校	6歳	21.3	△0.1	21.3	0.0	22	21.2	0.1	20.6	△0.6	20.8	△0.2	37	20.6	0.0
	7歳	23.6	△0.1	24.0	△0.4	39	23.4	0.2	23.5	0.2	23.4	0.1	17	22.6	0.9
	8歳	26.9	△0.4	27.0	△0.1	25	26.2	0.7	26.2	△0.2	26.4	△0.2	29	25.7	0.5
	9歳	30.2	0.4	30.4	△0.2	28	28.9	1.3	29.5	△0.6	29.8	△0.3	35	28.9	0.6
	10歳	33.8	0.4	34.0	△0.2	24	31.8	2.0	33.6	△0.5	34.0	△0.4	34	33.0	0.6
	11歳	37.8	0.1	38.4	△0.6	35	35.7	2.1	39.3	△0.4	39.0	0.3	17	37.9	1.4
中学校	12歳	44.0	△0.4	44.0	0.0	24	41.2	2.8	44.2	0.3	43.6	0.6	15	42.6	1.6
	13歳	49.1	0.0	48.8	0.3	15	46.7	2.4	48.0	1.0	47.2	0.8	8	47.4	0.6
	14歳	54.1	0.5	53.9	0.2	17	52.7	1.4	50.1	0.2	50.0	0.1	21	49.9	0.2
高等学校	15歳	58.7	△0.8	58.9	△0.2	31	57.6	1.1	52.1	1.4	51.4	0.7	10	52.3	△0.2
	16歳	61.5	1.3	60.7	0.8	14	60.2	1.3	51.5	△1.1	52.4	△0.9	46	52.9	△1.4
	17歳	62.2	△0.6	62.6	△0.4	38	60.8	1.4	52.1	△0.6	52.9	△0.8	45	52.0	0.1

(注) は、全国平均を上回るものを示す。

図5 全国平均値との差

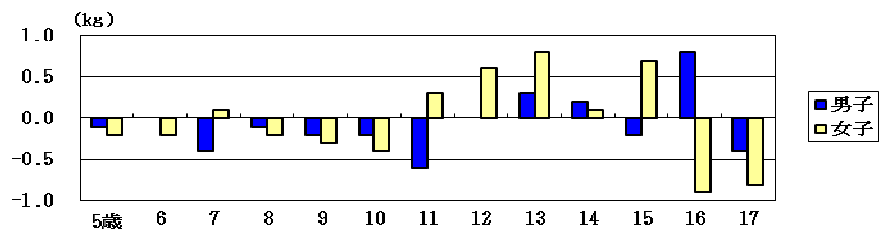


図6 各年齢間の体重差

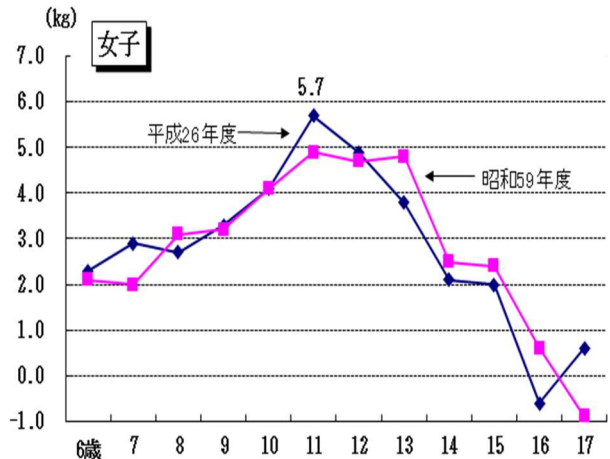
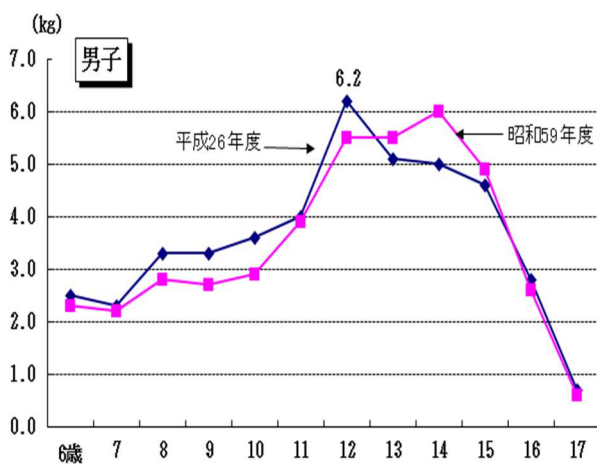
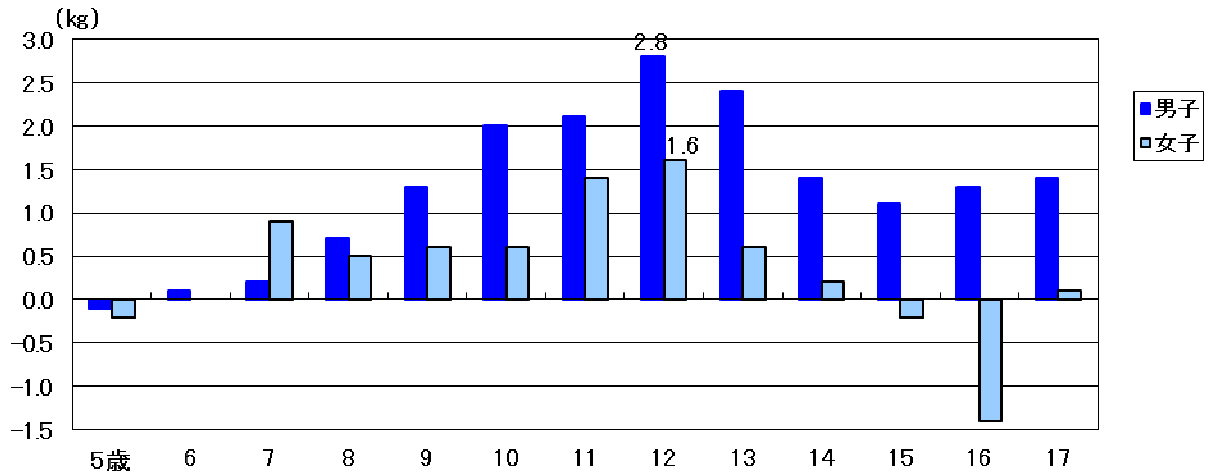
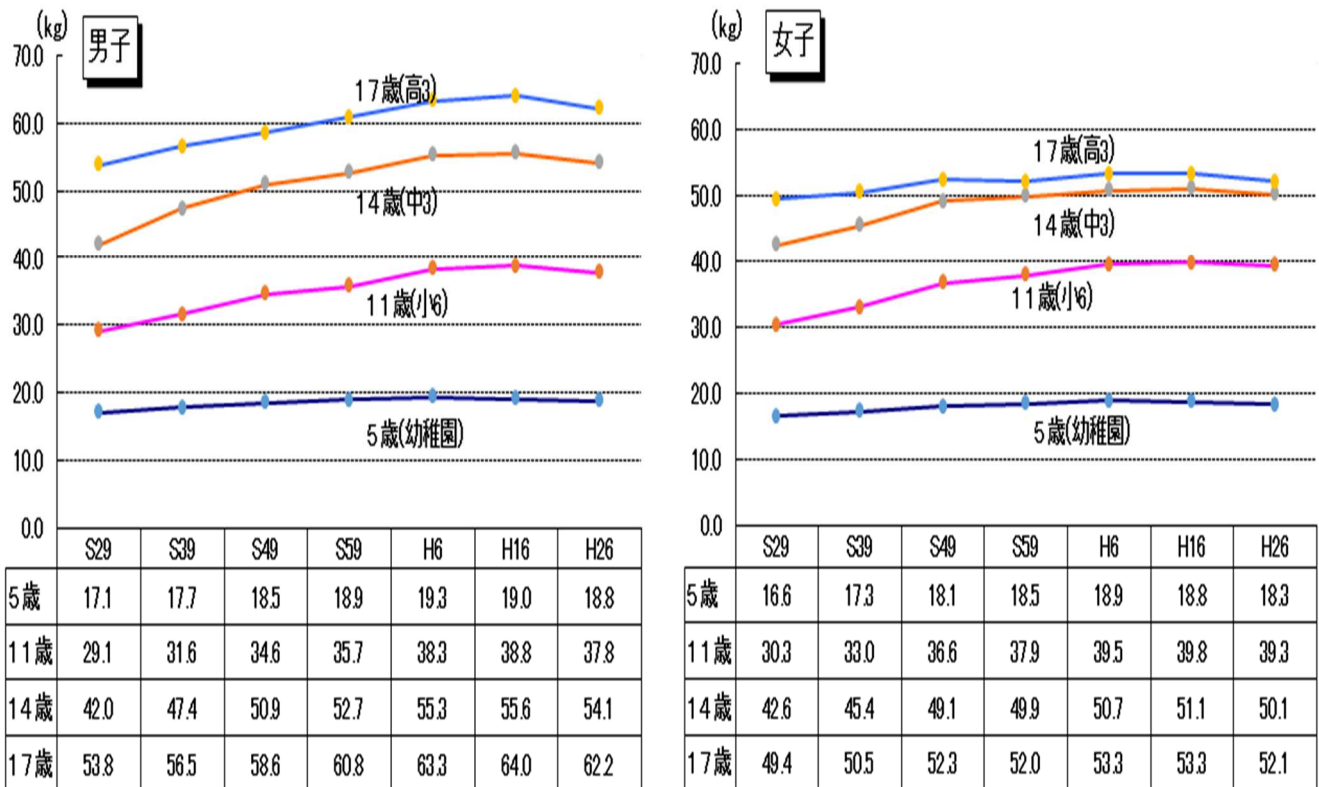


図7 30年前(親の世代)との体重差(平成26年度ー昭和59年度)



各学校段階の最高学年の体重について、60年間の推移を10年ごとにみると、男子の最高値は5歳が平成6年度、11,14,17歳が平成16年度となっており、女子の最高値は5歳が平成6年度、11,14歳が平成16年度、17歳が平成6,16年度となっている。(図8)

図8 体重の平均値の推移(昭和29年度～平成26年度の10年間隔)



【座 高】

座高(平均値)は、前年度と比較すると、男子は5, 9, 10, 12~14, 16, 17歳で前年度を上回り、女子は5, 6, 8~11, 14~16歳で前年度を下回っている。(13年齢区分中、男子は増加8・減少5、女子は増加2・減少9)

全国との比較では、男子は6, 16歳、女子は11歳を除き、全国平均を下回っている。(男子は高0・低11、女子は高0・低12) (表3, 図9)

各年齢間の座高差をみると、男子は12~13歳の間が3.8cm、女子は10~11歳の間が3.7cmと最も大きくなっている。(図10)

30年前(親の世代)の昭和59年度と比較すると、5~7歳男子、5~8, 15歳女子を除く全ての年齢で親の世代の値を超えており、特に12歳男子で2.0cm、12歳女子で1.3cmと最も伸びている。(表3, 図11)

表3 年齢別座高の平均値

(cm)

区 分		男 子						女 子							
		平成26年度			昭和59年度			平成26年度			昭和59年度				
		香川県		全 国	香川県		全 国	香川県		全 国	香川県		全 国		
		A	対前年度差	B	A-B	順位	C	A-C	A	対前年度差	B	A-B	順位	C	A-C
幼稚園	5歳	61.6	0.1	61.8	△0.2	36	62.2	△0.6	61.0	△0.2	61.3	△0.3	41	61.8	△0.8
小学校	6歳	64.8	△0.2	64.8	0.0	21	65.1	△0.3	64.3	△0.3	64.4	△0.1	28	64.6	△0.3
	7歳	67.2	△0.4	67.6	△0.4	42	67.7	△0.5	67.1	0.0	67.2	△0.1	30	67.1	0.0
	8歳	70.1	△0.1	70.2	△0.1	24	69.8	0.3	69.5	△0.6	69.9	△0.4	41	69.5	0.0
	9歳	72.4	0.1	72.6	△0.2	34	71.9	0.5	72.2	△0.5	72.6	△0.4	43	72.1	0.1
	10歳	74.7	0.4	74.9	△0.2	33	73.9	0.8	75.6	△0.2	75.8	△0.2	36	75.1	0.5
中学校	11歳	77.5	△0.1	77.6	△0.1	29	76.2	1.3	79.3	△0.1	79.3	0.0	19	78.4	0.9
	12歳	81.0	0.2	81.3	△0.3	37	79.0	2.0	82.0	0.1	82.1	△0.1	26	80.7	1.3
	13歳	84.8	0.3	84.9	△0.1	28	82.9	1.9	83.6	0.3	83.8	△0.2	38	83.1	0.5
高等学校	14歳	87.9	0.5	88.1	△0.2	35	86.2	1.7	84.4	△0.1	84.9	△0.5	45	83.9	0.5
	15歳	90.0	△0.3	90.4	△0.4	37	88.9	1.1	84.6	△0.5	85.4	△0.8	46	84.8	△0.2
	16歳 *	91.4	0.4	91.4	0.0	22	89.9	1.5	85.4	△0.1	85.7	△0.3	39	84.9	0.5
	17歳	91.8	0.4	92.0	△0.2	33	90.3	1.5	85.5	0.0	85.9	△0.4	38	85.0	0.5

(注) *は過去の記録を更新したものを示す。

図9 全国平均値との差

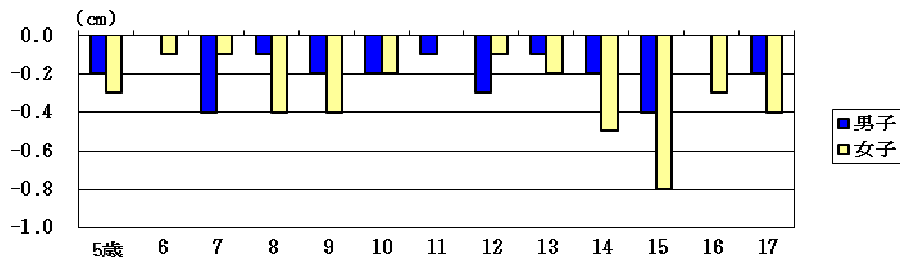


図10 各年齢間の座高差

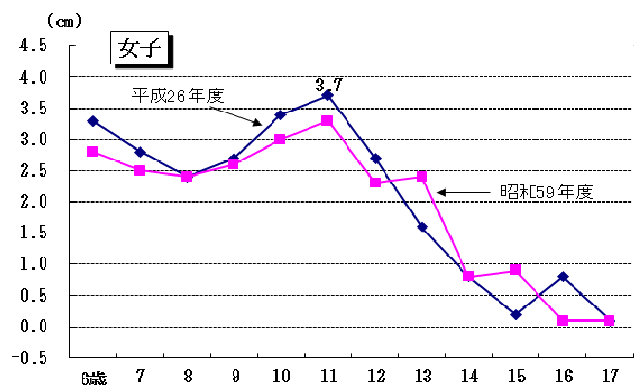
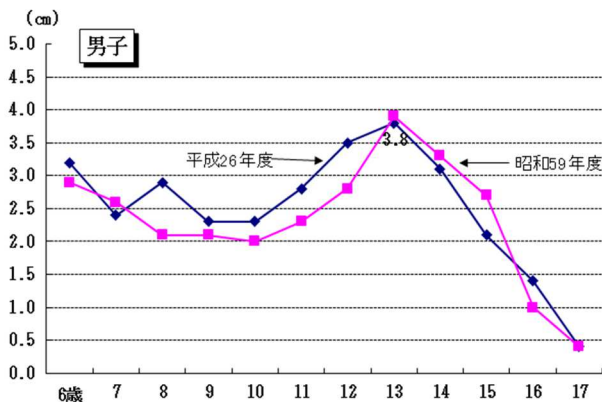
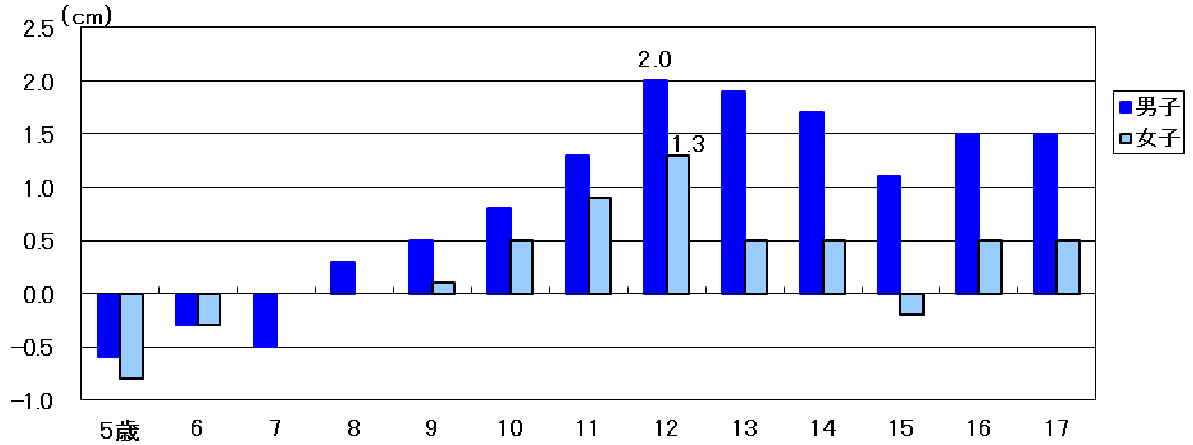
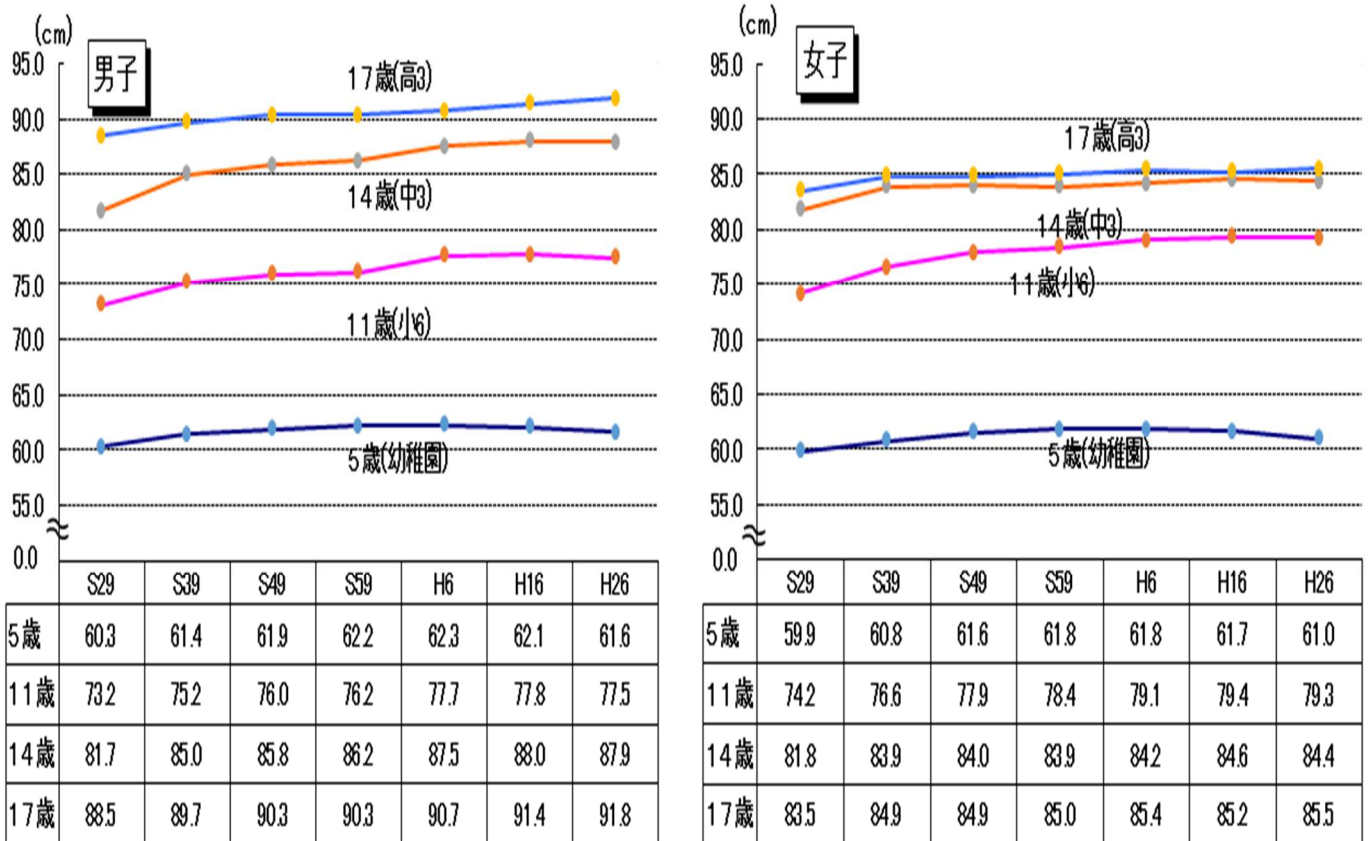


図 11 30 年前(親の世代)との座高差(平成 26 年度－昭和 59 年度)



各学校段階の最高学年の座高について、60年間の推移を10年ごとにみると、男子の最高値は5歳が平成6年度、11、14歳が平成16年度、17歳が本年度となっており、女子の最高値は5歳が昭和59年度及び平成6年度、11、14歳が平成16年度、17歳が本年度となっている。(図12)

図 12 座高の平均値の推移(昭和 29 年度～平成 26 年度の 10 年間隔)



【肥満傾向児の出現率】

肥満傾向児の出現率は、前年度と比較すると、男子は5～8, 11, 12, 17歳で低下し、女子は6, 8～11, 16, 17歳で低下している。(13年齢区分中、男子は上昇6・低下7、女子は上昇6・低下7)

全国との比較では、男子は9, 12～17歳で全国平均を上回っており、女子は5, 7, 8, 11～15歳で全国平均を上回っている。(男子は高7・低6、女子は高8・低5)

各年齢別の出現率をみると、男子が15歳で13.56%、女子が15歳で12.55%と最も高くなっている。

(表4, 図13)

表4 肥満傾向児の出現率

(%)

区分	年齢	計					男子					女子				
		香川県 A	対前年度差	全国 B	A-B	順位	香川県 A	対前年度差	全国 B	A-B	順位	香川県 A	対前年度差	全国 B	A-B	順位
幼稚園	5歳	2.73	0.15	2.62	0.11	22	1.83	△ 0.60	2.55	△ 0.72	37	3.66	0.92	2.69	0.97	11
小学校	6歳	2.87	△ 3.07	4.25	△ 1.38	44	3.10	△ 2.87	4.34	△ 1.24	44	2.62	△ 3.30	4.15	△ 1.53	43
	7歳	5.98	0.60	5.43	0.55	14	4.62	△ 0.51	5.45	△ 0.83	30	7.36	1.73	5.41	1.95	13
	8歳	6.65	△ 2.12	6.92	△ 0.27	27	6.99	△ 3.61	7.57	△ 0.58	28	6.31	△ 0.55	6.24	0.07	29
	9歳	7.68	△ 1.52	8.14	△ 0.46	28	9.16	1.21	8.89	0.27	23	6.14	△ 4.37	7.36	△ 1.22	38
	10歳	6.94	△ 0.73	9.07	△ 2.13	41	7.91	0.21	9.72	△ 1.81	34	5.93	△ 1.71	8.40	△ 2.47	44
	11歳	7.71	△ 2.20	9.44	△ 1.73	40	6.84	△ 2.21	10.28	△ 3.44	45	8.63	△ 2.18	8.56	0.07	25
中学校	12歳	11.74	0.10	9.38	2.36	9	12.49	△ 0.79	10.72	1.77	12	10.95	1.05	7.97	2.98	10
	13歳	9.95	2.75	8.42	1.53	11	9.68	1.88	8.94	0.74	18	10.22	3.65	7.89	2.33	6
	14歳	9.82	1.65	7.93	1.89	8	9.02	0.58	8.16	0.86	16	10.64	2.76	7.68	2.96	5
高等学校	15歳	13.06	4.11	9.90	3.16	10	13.56	2.79	11.42	2.14	14	12.55	5.51	8.35	4.20	4
	16歳	9.48	0.23	8.81	0.67	21	11.69	1.61	10.16	1.53	13	7.18	△ 1.25	7.44	△ 0.26	31
	17歳	8.13	△ 1.34	9.48	△ 1.35	38	10.73	△ 1.39	10.69	0.04	24	5.51	△ 1.40	8.25	△ 2.74	47

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

は、全国平均を上回るものを示す。

図13 肥満傾向児の年齢別出現率

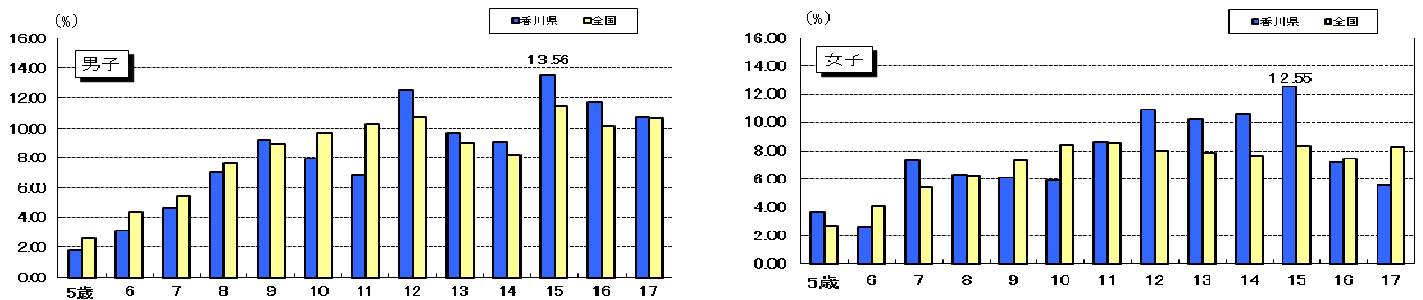
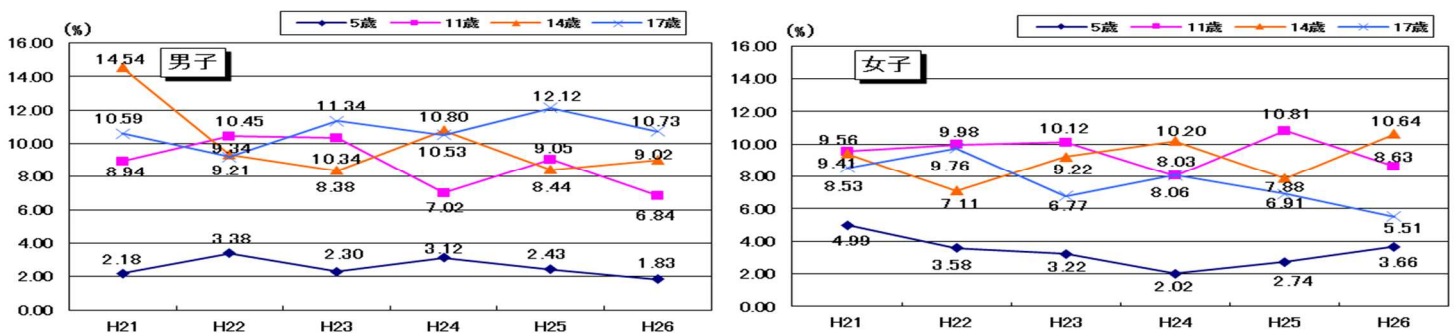


図14 肥満傾向児の出現率の推移



【痩身傾向児の出現率】

痩身傾向児の出現率は、前年度と比較すると、男子は6, 7, 9, 10, 13~15, 17歳で上昇し、女子は6, 8~15, 17歳で低下している。(13年齢区分中、男子は上昇8・低下5、女子は上昇3・低下10)

全国との比較では、男子は5, 8, 10~12, 14~17歳で全国平均を下回り、女子は6~15, 17歳で全国平均を下回っている。(男子は高4・低9、女子は高2・低11)

各年齢別の出現率をみると、男子は10歳で2.74%、女子は16歳で3.11%と最も高くなっている。(表5、図15)

表5 痩身傾向児の出現率

(%)

区分	年齢	計					男子					女子				
		香川県 A	対前年度差	全国 B	A-B	順位	香川県 A	対前年度差	全国 B	A-B	順位	香川県 A	対前年度差	全国 B	A-B	順位
幼稚園	5歳	0.51	0.15	0.36	0.15	13	0.20	△ 0.38	0.34	△ 0.14	32	0.83	0.69	0.39	0.44	5
小学校	6歳	0.49	△ 0.37	0.52	△ 0.03	19	0.77	0.05	0.41	0.36	6	0.19	△ 0.81	0.64	△ 0.45	41
	7歳	0.37	0.37	0.62	△ 0.25	34	0.58	0.58	0.50	0.08	15	0.17	0.17	0.75	△ 0.58	41
	8歳	0.73	△ 0.59	1.04	△ 0.31	35	0.87	△ 0.66	0.98	△ 0.11	24	0.58	△ 0.53	1.10	△ 0.52	38
	9歳	2.13	0.06	1.92	0.21	15	2.56	0.28	1.79	0.77	4	1.68	△ 0.18	2.06	△ 0.38	28
	10歳	2.39	0.48	2.68	△ 0.29	21	2.74	1.78	2.85	△ 0.11	19	2.02	△ 0.90	2.50	△ 0.48	31
中学校	11歳	1.18	△ 0.78	3.05	△ 1.87	47	0.75	△ 1.41	3.24	△ 2.49	47	1.64	△ 0.12	2.86	△ 1.22	43
	12歳	1.68	△ 1.54	3.45	△ 1.77	43	1.05	△ 1.22	2.77	△ 1.72	44	2.34	△ 1.89	4.17	△ 1.83	44
	13歳	2.52	0.36	2.61	△ 0.09	18	2.23	1.09	1.75	0.48	5	2.83	△ 0.40	3.52	△ 0.69	34
高等学校	14歳	1.91	0.24	2.15	△ 0.24	30	1.57	0.86	1.79	△ 0.22	24	2.26	△ 0.42	2.52	△ 0.26	26
	15歳	1.65	△ 1.46	2.60	△ 0.95	43	2.19	0.97	2.66	△ 0.47	21	1.12	△ 3.97	2.53	△ 1.41	43
	16歳	2.16	0.17	2.02	0.14	14	1.24	△ 1.25	2.19	△ 0.95	38	3.11	1.61	1.85	1.26	3
	17歳	1.05	△ 0.37	1.84	△ 0.79	39	1.81	1.18	1.99	△ 0.18	21	0.29	△ 1.89	1.69	△ 1.40	46

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

■は、全国平均を上回るものを示す。

図15 痩身傾向児の年齢別出現率

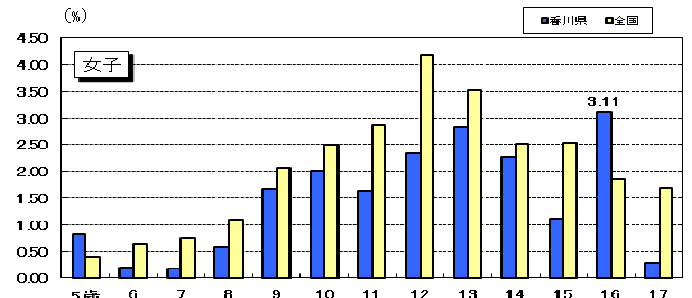
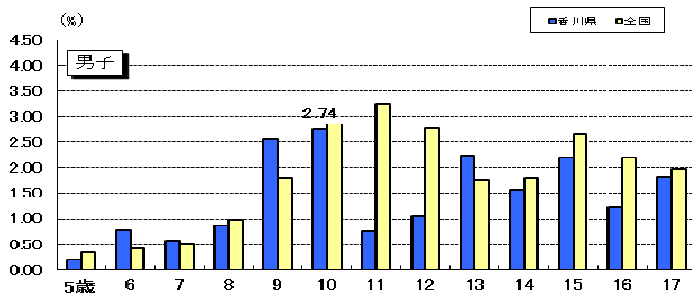
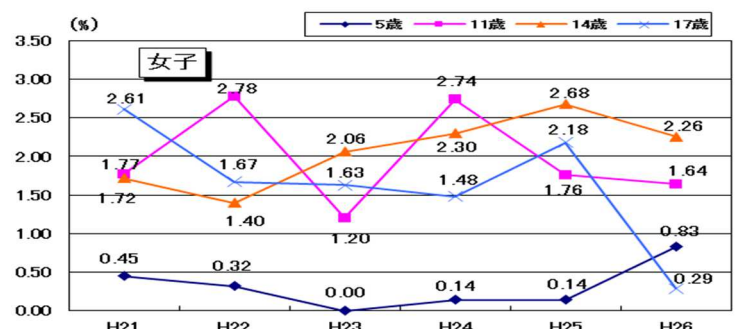
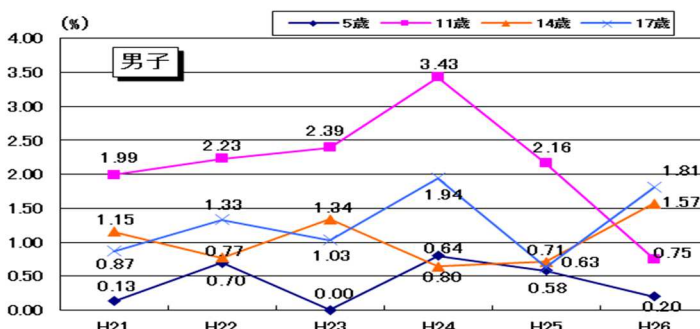


図16 痩身傾向児の出現率の推移



健康状態調査

【主な疾病・異常被患率】

各年齢別の主な疾病・異常被患率をみると、「裸眼視力 1.0 未満」は、年齢が進むにつれて被患率が高くなる傾向があり、その一方で「鼻・副鼻腔疾患」、「ぜん息」などについては、年齢が進むにつれて被患率がおおむね低くなる傾向がある。(表 6)

表6 疾病・異常の被患率

(%)

区分	裸眼視力				眼の疾病・異常	耳鼻咽喉頭			歯・口腔			アレルギー性皮膚炎	心電図異常	蛋白検出の者	ぜん息	
	計	1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満		耳疾患	鼻・副 鼻腔疾 患	口腔 咽喉頭 疾患・ 異常	むし歯(う歯)							
									計	処置完 了者	未処置 歯のあ る者					
幼稚園 5歳	21.6	15.1	6.1	0.5	2.2	3.6	6.4	0.7	46.2	19.0	27.3	1.9	…	0.4	0.8	
小学校	計	31.2	10.5	11.6	9.2	4.9	6.8	12.1	0.7	54.5	30.0	24.5	3.1	3.5	0.6	2.9
	6歳	16.9	11.7	4.2	1.0	4.1	9.1	11.8	1.2	48.8	20.9	27.9	2.6	3.5	0.3	3.0
	7歳	21.7	10.7	8.1	2.8	3.9	8.5	9.9	0.7	60.3	30.1	30.2	2.9	…	0.4	3.5
	8歳	28.2	10.8	11.4	6.1	4.9	6.1	11.7	0.6	62.1	35.9	26.2	2.4	…	0.5	3.0
	9歳	32.5	9.5	12.8	10.2	4.7	6.3	13.0	0.5	60.6	34.7	25.9	3.5	…	0.5	2.5
	10歳	40.5	10.4	14.8	15.4	5.8	5.6	13.7	0.6	53.4	31.3	22.1	3.2	…	0.9	2.7
中学校	11歳	45.8	9.8	17.6	18.4	5.6	5.4	12.7	0.6	42.5	27.0	15.5	3.6	…	1.3	3.0
	計	55.6	8.5	21.7	25.5	5.0	3.8	9.1	0.2	46.5	29.9	16.6	2.3	4.1	2.8	2.0
	12歳	53.1	X	X	X	5.7	4.1	9.9	0.3	42.9	28.7	14.2	2.5	4.1	2.2	2.3
	13歳	58.0	X	X	X	5.3	3.5	9.2	0.2	46.1	29.4	16.8	2.2	…	3.3	1.7
高等学校	14歳	55.8	8.0	18.7	29.1	4.1	3.7	8.4	0.1	50.4	31.6	18.8	2.2	…	3.0	1.8
	計	X	X	X	X	4.2	2.7	7.8	0.1	51.1	32.6	18.4	2.6	3.7	1.1	1.4
	15歳	X	X	X	X	2.9	3.4	6.5	0.2	46.4	28.7	17.8	2.6	3.7	1.3	1.1
	16歳	X	X	X	X	4.2	2.6	8.7	-	49.9	32.9	17.0	2.6	…	0.9	1.5
17歳	X	X	X	X	5.5	1.9	8.4	0.0	57.4	36.7	20.7	2.5	…	1.1	1.7	

- (注) 1 この表は、疾病・異常該当者(疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載のあった者)の占める割合を示したものである。
 2 「…」については、調査対象とならなかった場合である。「-」については、該当者がいない場合である。
 3 「X」は、疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。
 4 四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

【学校種別疾病・異常被患率】

幼稚園、小学校及び高等学校で「むし歯(う歯)」が最も高くなっている。(表7)

※高等学校は「裸眼視力1.0未満」を除く。

表7 学校種別疾病・異常の被患率

順位	幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
	区分	%	区分	%	区分	%	区分	%
1	むし歯(う歯)	46.2	むし歯(う歯)	54.5	裸眼視力1.0未満	55.6	むし歯(う歯)	51.1
2	裸眼視力1.0未満	21.6	裸眼視力1.0未満	31.2	むし歯(う歯)	46.5	鼻・副鼻腔疾患	7.8
3	鼻・副鼻腔疾患	6.4	鼻・副鼻腔疾患	12.1	鼻・副鼻腔疾患	9.1	歯垢の状態	5.2
4	耳疾患	3.6	歯・口腔(その他)	7.1	歯垢の状態	7.4	歯肉の状態	5.0
5	歯列・咬合	2.8	耳疾患	6.8	歯列・咬合	7.1	歯列・咬合	3.8

◎ むし歯(う歯)

むし歯(う歯)のある者の割合は、幼稚園が46.2%、小学校が54.5%、中学校が46.5%、高等学校が51.1%となっており、いずれも前年度より低下している。

年齢別にみると8歳が62.1%と最も高く、次いで9歳の60.6%、7歳の60.3%となっている。

未処置歯のある者の割合は、幼稚園で前年度より上昇しているが、小学校、中学校及び高等学校では低下している。また、処置完了者の割合は、8歳以上で未処置歯のある者を上回っている。(図17, 表6, 表8)

むし歯(う歯)のある者の25年前(平成元年度)からの推移を5年ごとにみると、全ての学校段階で25年前からおおむね低下傾向にあり、中学校では4年連続で50%を下回った。(図18, 表8)

◎ 歯垢の状態・歯肉の状態

歯垢の状態(歯に相当の付着がある)の割合は、全ての学校段階で前年度より低下している。また、歯肉の状態(専門医による診断が必要)の割合も、全ての学校段階で前年度より低下している。(図19, 図20, 表8)

図17 むし歯(う歯)のある者の割合

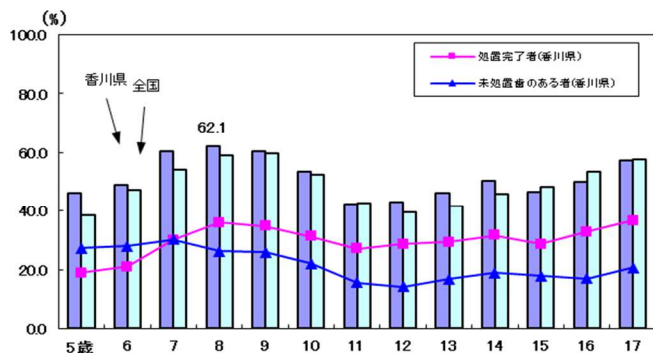


図18 むし歯(う歯)のある者の推移(5年間隔)

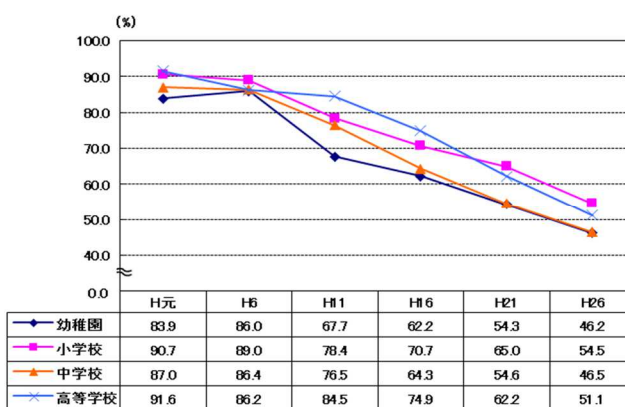


図19 歯垢の状態の推移

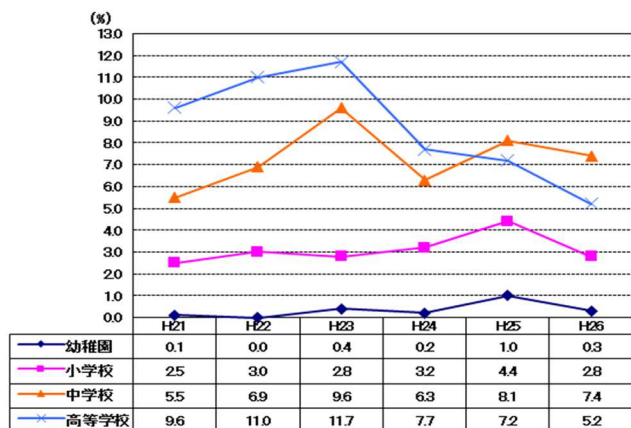
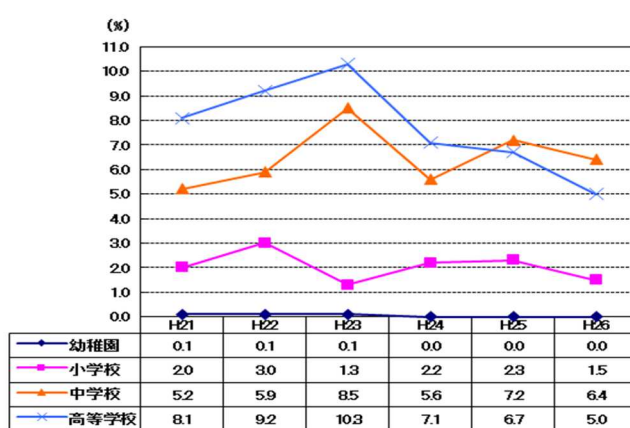


図20 歯肉の状態の推移



◎ 裸眼視力 1.0 未満の者

裸眼視力 1.0 未満の者の割合は、幼稚園が 21.6%、小学校が 31.2%、中学校が 55.6%となっており、いずれも前年度より上昇している。(本年度の高等学校は非公表)

裸眼視力 1.0 未満の者の割合の推移を 5 年ごとにみると、小学校は上昇傾向にある。(図 21, 図 22, 表 8)

図 21 裸眼視力 1.0 未満の者の割合

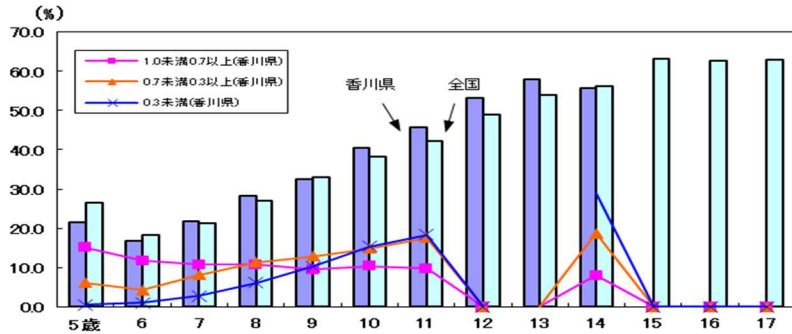
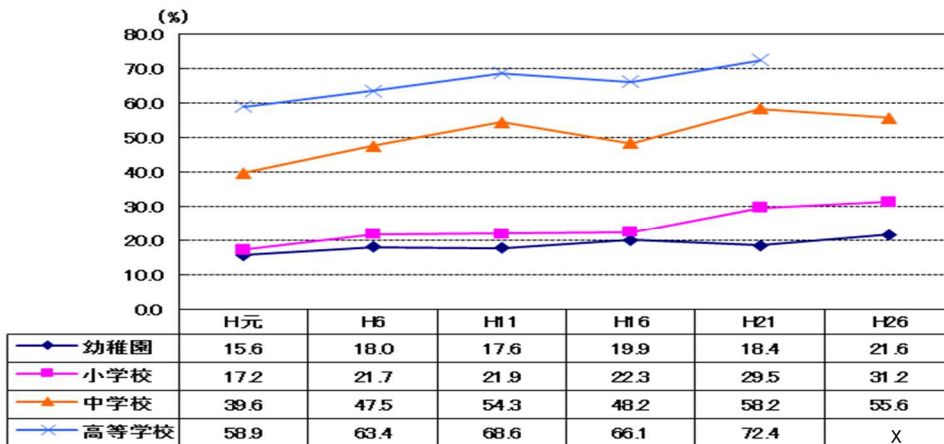


図 22 裸眼視力 1.0 未満の者の推移(5 年間隔)



◎ 鼻・副鼻腔疾患

鼻・副鼻腔疾患の者の割合は、幼稚園が 6.4%、小学校が 12.1%、中学校が 9.1%、高等学校が 7.8%となっている。年齢別にみると 10 歳が 13.7%と高くなっている。前年度と比べ、小学校と中学校では低下しているが、幼稚園と高等学校では上昇している。(図 23, 表 6, 表 8)

◎ アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎の者の割合は、幼稚園が 1.9%、小学校が 3.1%、中学校が 2.3%、高等学校が 2.6%となっている。年齢別にみると 11 歳が 3.6%と最も高くなっている。前年度と比べ、幼稚園、小学校及び高等学校で上昇している。(図 24, 表 6, 表 8)

図 23 鼻・副鼻腔疾患の者の割合

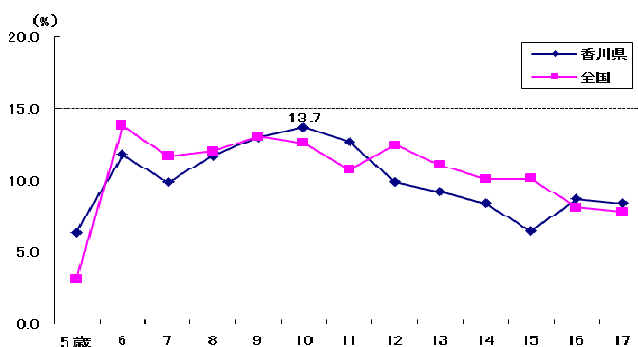
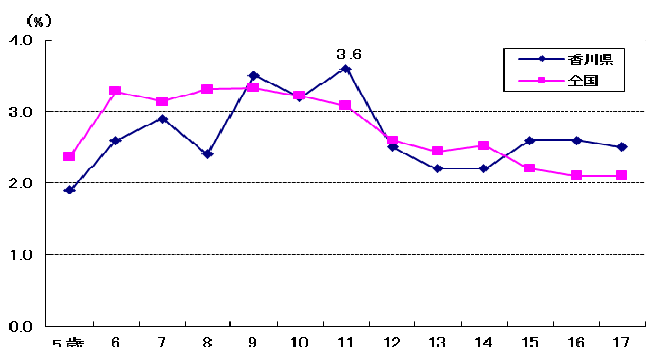


図 24 アトピー性皮膚炎の者の割合



【主な疾病・異常被患率の全国比較】

主な疾病・異常被患率について全国と比較すると、「むし歯(う歯)のある者」については、幼稚園、小学校及び中学校で全国を上回っているが、うち「未処置歯のある者」については、小学校、中学校及び高等学校で全国を下回っている。「歯垢の状態」、「歯肉の状態」では、いずれも中学校と高等学校で全国を上回っている。

さらに、「裸眼視力 1.0 未満の者」については、小学校と中学校で全国を上回っている。(高等学校は非公表のため除く。) また、「耳疾患」については、幼稚園・小学校・高等学校で全国を上回っている。

「鼻・副鼻腔疾患」については、小学校、中学校及び高等学校で、「アトピー性皮膚炎」については、幼稚園、小学校及び中学校で、「ぜん息」については、全ての学校段階でそれぞれ全国を下回っている。(表 8, 図 25)

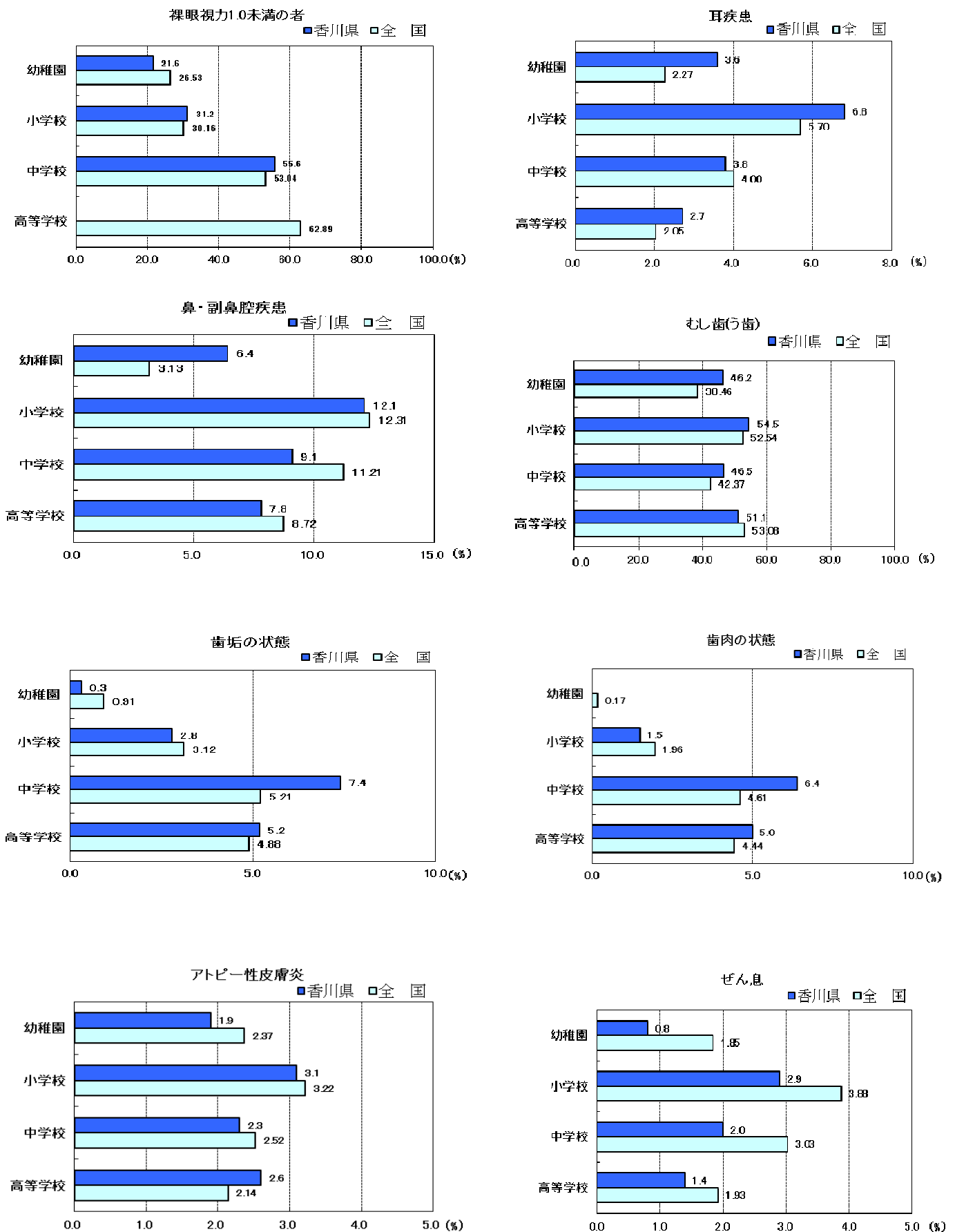
表8 主な疾病・異常被患率の全国比較

(%)

区分	裸眼視力 1.0未満 の者	眼の疾 病・異常	耳疾患	鼻・副鼻 腔疾患	むし歯(う歯)			歯・口腔		アトピー 性皮膚炎	心電図 異常	蛋白検出 の者	ぜん息			
					計	処置完了 者	未処置歯 のある者	歯垢の状 態	歯肉の状 態							
幼稚園	平成 22年度	県	25.2	2.1	4.7	5.9	49.8	23.7	26.1	-	0.1	2.4	...	0.8	0.5	
		国	26.43	2.15	3.34	3.39	46.07	18.36	27.71	0.53	0.20	3.28	...	1.01	2.74	
	23年度	県	25.6	1.6	5.6	6.9	42.1	12.5	29.6	0.4	0.1	2.1	...	1.6	1.1	
		国	25.48	1.82	2.54	4.37	42.95	16.91	26.04	0.49	0.27	2.87	...	0.76	2.79	
	24年度	県	17.8	3.1	3.6	5.1	53.8	23.9	29.9	0.2	-	1.8	...	0.6	0.6	
		国	27.52	1.83	2.60	3.50	42.86	17.31	25.55	0.84	0.23	2.88	...	0.58	2.33	
	25年度	県	18.1	1.2	3.9	5.4	46.8	19.8	27.1	1.0	-	1.4	...	0.2	2.3	
		国	24.53	2.09	2.58	3.44	39.51	16.01	23.50	0.59	0.26	2.39	...	0.89	2.13	
	26年度	県	21.6	2.2	3.6	6.4	46.2	19.0	27.3	0.3	-	1.9	...	0.4	0.8	
		国	26.53	1.76	2.27	3.13	38.46	15.68	22.78	0.91	0.17	2.37	...	0.74	1.85	
	小学校	平成 22年度	県	29.3	4.3	6.2	10.9	61.1	34.2	26.9	3.0	3.0	3.8	1.8	0.6	3.6
			国	29.91	4.83	5.43	11.66	59.63	29.20	30.44	3.53	2.17	3.38	2.48	0.75	4.19
23年度		県	31.8	3.6	6.6	10.6	61.9	33.8	28.1	2.8	1.3	3.6	2.3	0.5	3.3	
		国	29.91	5.34	5.52	12.50	57.20	28.65	28.56	3.03	1.86	3.30	2.51	0.75	4.34	
24年度		県	29.9	5.2	6.9	13.1	61.1	34.3	26.8	3.2	2.2	3.3	2.6	0.6	3.6	
		国	30.68	5.44	5.39	12.19	55.76	28.36	27.41	3.23	2.07	3.25	2.30	0.75	4.22	
25年度		県	29.0	4.7	6.6	12.7	58.7	33.3	25.4	4.4	2.3	2.8	3.2	0.6	3.1	
		国	30.52	5.32	5.43	12.07	54.14	27.18	26.96	3.57	2.28	3.06	2.62	0.74	4.15	
26年度		県	31.2	4.9	6.8	12.1	54.5	30.0	24.5	2.8	1.5	3.1	3.5	0.6	2.9	
		国	30.16	5.24	5.70	12.31	52.54	26.23	26.30	3.12	1.96	3.22	2.34	0.84	3.88	
中学校		平成 22年度	県	55.3	2.6	2.9	6.8	51.9	32.1	19.7	6.9	5.9	3.4	2.8	1.4	2.3
			国	52.73	4.65	3.56	10.67	50.60	28.02	22.58	5.52	5.15	2.56	3.36	2.61	3.02
	23年度	県	X	3.5	3.4	8.0	49.6	30.6	19.0	9.6	8.5	3.2	3.5	1.8	2.5	
		国	51.59	5.39	3.28	11.75	48.31	26.75	21.56	5.09	4.82	2.42	3.36	2.60	2.83	
	24年度	県	69.1	3.6	3.7	10.5	47.1	28.4	18.6	6.3	5.6	2.7	3.2	1.9	1.6	
		国	54.38	4.67	3.62	11.39	45.67	25.55	20.12	4.84	4.26	2.47	3.32	2.50	2.95	
	25年度	県	50.6	4.2	3.0	11.2	47.8	27.7	20.1	8.1	7.2	2.3	3.5	1.8	2.1	
		国	52.79	4.63	3.89	11.11	44.59	24.92	19.66	5.08	4.61	2.48	3.44	2.45	3.22	
	26年度	県	55.6	5.0	3.8	9.1	46.5	29.9	16.6	7.4	6.4	2.3	4.1	2.8	2.0	
		国	53.04	5.32	4.00	11.21	42.37	23.83	18.54	5.21	4.61	2.52	3.33	3.00	3.03	
	高等学校	平成 22年度	県	X	2.9	3.8	8.1	63.1	36.9	26.2	11.0	9.2	3.1	4.3	1.6	1.5
			国	55.64	3.44	1.61	8.45	59.95	34.21	25.74	5.16	5.07	2.23	3.16	2.84	2.08
23年度		県	X	3.2	3.4	9.3	65.5	35.3	30.2	11.7	10.3	1.9	3.7	1.2	1.3	
		国	60.93	3.77	1.64	8.81	58.46	32.24	26.22	5.22	4.95	2.06	3.13	2.92	1.94	
24年度		県	73.7	2.8	3.0	10.8	59.5	36.1	23.4	7.7	7.1	2.6	3.1	1.3	1.5	
		国	64.47	3.70	1.88	8.63	57.60	32.34	25.26	5.51	5.29	2.07	3.02	2.67	1.91	
25年度		県	X	3.5	3.3	7.6	57.6	36.6	21.0	7.2	6.7	2.1	4.1	1.2	1.4	
		国	65.84	3.26	2.15	8.74	55.12	31.45	23.67	4.94	4.75	2.14	3.19	2.68	1.90	
26年度		県	X	4.2	2.7	7.8	51.1	32.6	18.4	5.2	5.0	2.6	3.7	1.1	1.4	
		国	62.89	3.76	2.05	8.72	53.08	30.45	22.63	4.88	4.44	2.14	3.25	3.14	1.93	

(注) 1 心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ実施している。
 2 平成22、23、24、25年度の数値は、学校保健統計調査報告書(文部科学省)の確定値である。
 3 「…」については、調査対象とならなかった場合である。「-」については、該当者がいない場合である。
 4 「X」は、疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。
 5 四捨五入の関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

図 25 全国との比較



<肥満傾向児・痩身傾向児の算出方法>

性別、年齢別、身長別標準体重から肥満度を算出し、肥満度が20%以上の者を肥満傾向児、-20%以下の者を痩身傾向児としている。

算式は以下のとおりである。

$$\text{肥満度} = [\text{実測体重(kg)} - \text{身長別標準体重(kg)}] / \text{身長別標準体重(kg)} \times 100(\%)$$

$$\text{※ 身長別標準体重(kg)} = a \times \text{実測身長(cm)} - b$$

年齢	係数		男		女	
	a	b	a	b	a	b
幼稚園	5	0.386	23.699	0.377	22.750	
	6	0.461	32.382	0.458	32.079	
小学校	7	0.513	38.878	0.508	38.367	
	8	0.592	48.804	0.561	45.006	
	9	0.687	61.390	0.652	56.992	
	10	0.752	70.461	0.730	68.091	
中学校	11	0.782	75.106	0.803	78.846	
	12	0.783	75.642	0.796	76.934	
	13	0.815	81.348	0.655	54.234	
高等学校	14	0.832	83.695	0.594	43.264	
	15	0.766	70.989	0.560	37.002	
	16	0.656	51.822	0.578	39.057	
	17	0.672	53.642	0.598	42.339	

出典：公益財団法人日本学校保健会「児童生徒の健康診断マニュアル(改訂版)」平成 18 年